

これからの道徳授業の在り方と学習指導に関する開発的研究

益 満 陽 平 [鹿児島大学教育学部附属小学校]・福 留 忠 洋 [鹿児島大学教育学部附属小学校]
永 田 佑 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

A developmental study on the method of and learning guidance of moral lessons into the future

MASUMITSU Yohei・FUKUDOME Tadahiro・NAGATA Yu

キーワード：豊かな生き方を追究し続ける力、道徳的価値理解に重点を置いた道徳授業、
6年間のつながりを明確にした学習内容

1. 研究の背景

生きる力を育むことは、知識基盤社会といわれるこれからの社会やグローバル化がますます激しくなる時代においても重要視されている。改めて、時代を超えて変わらない、調和のとれた人間形成の必要性が強調されたといえる。その中でも、「豊かな人間性」は、生きる力における重要な要素であり、そのような豊かな人間性をもった人を育成することが求められている。それは、これからの変化の激しい社会において、人と協調しつつ自律的に社会生活を送ることができるようになるために必要な要素であるからである。「豊かな人間性」は、美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切に、人権を尊重する心などの基本的な倫理観、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異なるものへの寛容などの感性及び道徳的価値を大切にしている心であると学習指導要領解説に定義付けられている。

このような豊かな心を育成し、基盤となる道徳性を養うのが道徳教育である。学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育は、これからの社会に重要視される道徳性を育む上で、大切な役割を担っている。そして、道徳教育の「要の時間」として位置付けられている道徳の時間は、道徳性を育成する上で、重要な存在である。それは、道徳の時間において、教育活動全体で行われている道徳教育が調和的に生かされ、計

画的、発展的な指導により、子どもたちの道徳性は一層豊かに育まれていくからである(図1)。

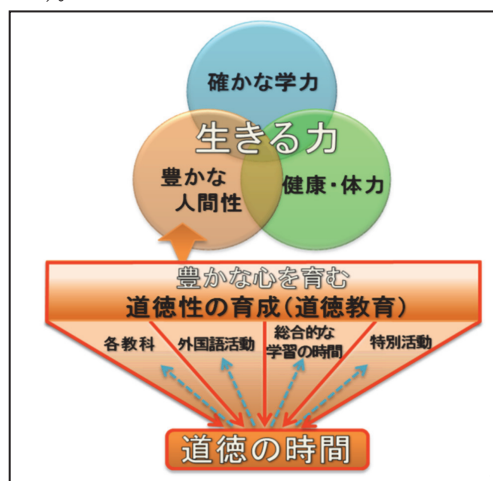


図1 学校教育における道徳の時間の役割

そのような道徳の時間は、「教育活動全体で学習した道徳的価値を自分のものとしてとらえ、発展させていこうとする子ども」「将来、出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような子ども」を育む時間であると私たちは考える。私たちが育んでいきたい子どもは、「人としてよりよく生きようとする子ども」とも言える。なぜなら、人間は本来、「人としてよりよく生きたい」という願いをもっている存在であり、上に述べた子どもの姿は、まさに、その願いを実現させるために必要となる態度や資質・能力を備えてい

と考えるからである。人としてよりよく生きたいと願う子どもは、豊かな人間性をもち、これからの社会において、人と協調しつつ、自律的に社会生活を送り続けることができるようになると思う。

そのような考えのもと、豊かな人間性を育成していくという立場から、本校のこれまでの子どもの様子を全体的な視点で見た時、さらに充実させたり、高めさせたりする必要があることが明らかになり、その要因を道徳教育や道徳の時間における姿で分析してみた(表1)。

要因から、本校の子どもたちの豊かな人間性

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識をもった言動 ・ 他人の意見に左右されず、自分の考えを明確にもった行動 ・ 規律・規則の遵守に対する意識 ・ 物を大切にしようとする態度
要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値のよさに気づいてはいるものの、それを実現しようとする気持ちが不十分。 ・ 自分の好き嫌いや仲がよいか悪いかの自分との関係によって、他者を意識した行動が変わる。 ・ 道徳的価値のよさについて一面的、短絡的にとらえてしまい、道徳的価値について自分の生活とのかかわりを実感することが不十分。

表1 本校の課題とその要因

の基盤となる道徳性を十分に育てていくために、教師の指導を改善したり充実したりする必要があるのではないかという考えに至った。つまり、子どもたちの道徳性を育むために、道徳教育の要である道徳の時間の指導について、新たな視点を加えて見つめ直し、要因の解決となるものを見出すとともに、これからの道徳授業の在り方を創造していく必要があると考えた。そして、そのことを踏まえた学習指導が計画的、発展的に行われることによって、目指す子どもの姿が表出されていくこととなり、道徳性が着実に育まれていくのではないかと考えた。さらに、そのことが、豊かな人間性を育てていくことにつながり、これからの変化の激しい社会に

改めて必要とされる、生きる力を育てていくこととなると考えた。

2. 研究の方向

前述した子どもたちの姿の要因を解決していくために、道徳性はどのように発達していき、どのような点に留意して育成していくかを改めて考えなければならない。

人間は、人間が生まれてきた時から道徳性を身に付けているのではなく、その萌芽をもって生まれてくる。社会における様々な体験を通して開花し、それぞれが固有のものを形成していく。そのように形成されていく道徳性をよりよく育むためには、人間が生まれながらにもっている、よりよく生きたいという力を引きだしていくことが大切である。その際には、道徳性は様々な体験を通して開花していくという考えから、体験の中でのかかわりを豊かにしていくことや道徳的価値に対して、自分の生き方の指針として捉えるために、道徳的価値への自覚を深めていくことが必要である。

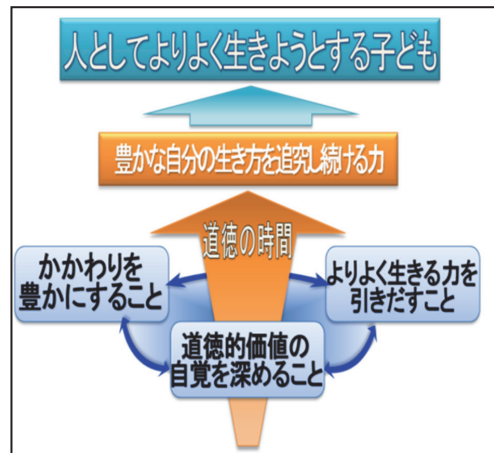


図2 目指す子どもの姿が育まれている様相

つまり、道徳性を育む道徳教育の要である道徳の時間は、これまでの自分の生き方を道徳的価値に照らし合わせながら考えさせることで、子どもたちにとって、道徳的価値が自分にとって意味のあるものであり、それを大切にしながら、これからの自分の生き方を豊かなものにし続けたいと思わせるものでなければならないと

考える。

上記のことを踏まえ、道徳の時間を充実・改善していく観点として、「よりよく生きる力を引き出すこと」「かかわりを豊かにすること」「道徳的価値の自覚を深めること」の3つを設定していくことにする。この3つの観点が相互に作用した道徳の時間によって、子どもたちは、これまでの様々なかかわりの中で見つめてきた道徳的価値を自分のものとして捉え、自分の生き方をよりよくし、豊かなものにしていこうとするであろうと考える(図2)。そして、充実・改善された道徳の時間を計画的、発展的に指導していくことで、子どもたちは、豊かな自分の生き方を追究し続けるような力を持ち、人としてよりよく生きようとする子どもの姿へと近づいていくものとする。

そこで本研究では、道徳の時間の充実・改善の3つの観点を、さらに実際の授業レベルで具体化することで、道徳の時間を充実・改善していく必要な力や態度を明らかにしていく。そして、それらが表出された道徳授業はどのようなものかを意図的・計画的に位置付けると共に、学習内容の設定や指導方法の考え方を見出し、具体化していく。

3. 研究内容

3.1. 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳授業の考え方

(1) 道徳の時間を充実・改善するために必要となる力や態度

豊かな自分の生き方を追究し続ける力を育てるためには、道徳の時間の充実・改善の3つの観点をどのように道徳授業に具現化し、実際の指導に生かしていくかが大切である。そのために、それぞれの様相とその際の教師の重要なかかわりを分析し、道徳の時間を充実・改善するために必要となる7つの力や態度を見出した。さらに、見出した力や態度を実際の道徳授業で表出したり発揮したりした子どもの姿について明らかにした(表2)。

(2) 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳授業とは

これまで本校では、「よりよい生き方を目指す意欲・態度」、「自己の見つめ方、自己への問いかけ方」、「生き方を支える知識・理解」を道徳の時間における学力の3要素とおき、それらを相互に関連させながら高めることで、道徳的実践力を高めようとしてきた。表2で明らかにした子どもの姿も、十分ではなかったものの、これまでの授業実践の中でも見取ることのできた姿である。そのことより、今回見出した力や態度は、本来子どもがもつ

表2 道徳の時間を充実・改善するための力や態度が発揮された子どもの姿

道徳の時間を充実・改善していくための力や態度	授業で発揮された子どもの姿
道徳的価値についての見方等(について、多面的、総合的に考える力【多面・総合】)	自分と友達の見方・感じ方・考え方を多面的・総合的に考える子ども ※ Aさんの大切にしたい考えやBさんのうまくできない気持ち、両方が自分もあるな。 ※ Cさんの◎◎な考えがあると、Dさんの△△の考えにつながるな。
考えを吟味する力【吟味】	自分、他者(教師、友達)、資料(資料中に含まれる)の考えを思慮深く考える子ども ※ Aさんは、〇〇が大切だというが、必ずしもそのように言えないことがある。 ※ Bさんの考えは自分と同じだが、根拠がよくわからない。 ※ 大切だとみんなが言うのは、なぜだろう。
見通しをもって考える力【見通し】	よりよい生き方を目指すために設定した問題に対して、解決の見通しをもつ子ども ※ 自分の考えていきたい問題は、資料の〇〇の場面を話合うと解決できそう。
コミュニケーションを行う力【コミュニケーション】	設定した問題の解決に向けて、自分の考えをもって友達と対話を行う子ども ※ ぼくは、〇〇と考えたよ。こんな時にそのことが大切と思ったからね。あなたはどうか。 ※ 他のペアやグループの考えを聞いて、もっと自分の考えに生かしたい。
他者と協力しようとする態度【協力】	設定した問題の解決に向けて、友達と協力して取り組む子ども ※ みんなはどのように考えたのかな、もっと知りたいな。 ※ 友達と協力してどんな気持ちや考えを大切にしたらいいか考えたい。
進んで参加しようとする態度【参加】	設定した問題の解決に向けて、自主的・主体的に参加しようとする子ども ※ この問題を解決したら、もっと楽しく生活できそう。 ※ 〇〇の気持ちを大切にするといいと思う。
他者・社会・自然とのつながりを尊重する態度【尊重】	自分と他者・社会・自然とのつながりを尊重する子ども ※ 友達のおかげで自分の考えをまとめることができた。 ※ 〇〇な気持ちを大切にしたら、みんなが楽しく生活できたんだ。 ※ △△の考えを大切にするとこれからの生活が楽しくなりそう。

ているもので、それを発揮させながら学習しているものと考え。故に、道徳の時間における学力の3要素が高まっていく際に、発揮される力や態度であると考え。よりよい生き方を目指す意欲・態度は、主に「他者・社会・自然とのつながりを尊重する態度(尊重)」「進んで参加しようとする態度(参加)」「他者と協力しようとする態度(協力)」を学習の際に意図的に表出させたり、発揮させたりすることによって高めていくことができると考える。また、生き方を支える知識・理解と自己への見つめ方・問いかけ方は、主に「考えを吟味する力(吟味)」「見通しをもって考える力(見通し)」「道徳的価値への見方等について、多面的、総合的に考える力(多面・総合)」「コミュニケーションを行う力(コミュニケーション)」を意図的に発揮させることで、互いにかかわり合って高めていくことができると考える。

そこで、道徳授業の中で、これらの力や態度をどのように発揮させるかに焦点をあて、道徳の時間を充実・改善させることで、道徳の時間における学力の3要素の高まりがより充実してくると考える(図3)。そのことに

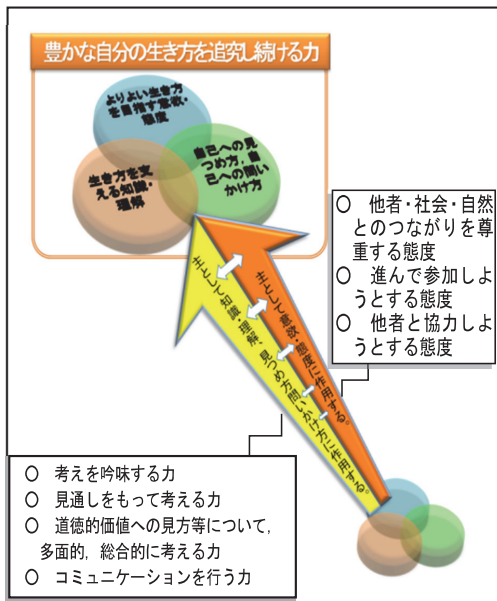


図3 道徳の時間における学力の3要素と必要な力や態度の関係

よって、豊かな自分の生き方を追究し続ける

力が高まり、人としてよりよく生きようとする子どもが育まれることにつながると考えた。つまり、豊かな自分の生き方を追究し続ける力を育成する道徳授業とは、子ども自らが道徳的価値と自分の生き方とのかかわりを多面的・総合的にとらえ、自分との様々なつながりを尊重していこうとしながら、道徳的価値について理解することを通して、道徳的価値の自覚を深めることができる授業であると考えた。

3.2. 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳授業の具体化

豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳の授業を行う上で、どのような要素がその授業に含まれるべきかを整理した(表3)。

表3 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳授業の要素

要素①	道徳的価値のよさ(なぜ大切か、どんなよさをもっているのか)の追究
要素②	道徳的価値に対する人間的な心の弱さや心の葛藤を乗り越える心構えの追究
要素③	道徳的価値に対する自らの課題を連続・発展
要素④	道徳的価値と自分の生活とのつながりを追究

これまでの本校の道徳授業を振り返ると、4つの要素を取り入れて授業を行ってきた。全学年の指導において道徳的価値について、人間理解という立場から、道徳的価値についてのよさ(①)、心の弱さや心の葛藤を乗り越えるための心構えを明らかにして(②)、学習指導を中心に行い、道徳的価値と自分の生活とのつながりを追究させながら(④)、課題を連続発展させていくようにしてきた(③)。つまり、これまでは、心の葛藤を乗り越える喜びや楽しさを味わう授業(以下、心の葛藤を乗り越える道徳授業)を中心に行ってきた。しかし、先に述べた子どもの姿の要因である、道徳的価値について一面的、短絡的に捉え、道徳的価値について自分の生活とのかかわりを実感することが不十分であることが明らかになったことから、これ

までの道德授業の考え方を充実・改善させることが必要であるとする。

そのためには、これまでの道德授業に加え、道德的価値そのものについてどのようなよさがあり、なぜ大切だと考えられているかを重点にして追究していく(①)授業も必要ではないかと考えた。追究の際は、道德的価値が、

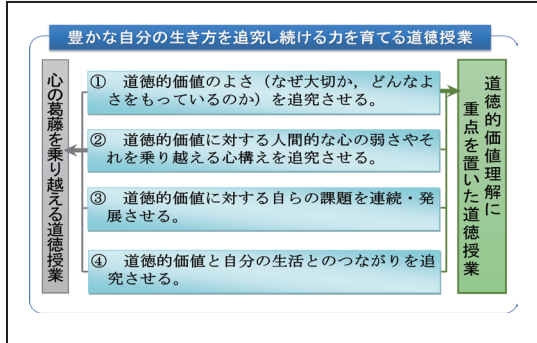


図4 道德的価値理解に重点を置いた道德授業とこれまでの授業との関係

自分の生活の中でどのように生かされてきたか、これまでどのようなものと捉えてきたか追究していくこと、つまり道德的価値と自分の生活とのつながりを追究していくこと(④)が必要となってくると考える。

そこで、これまでの心の葛藤を乗り越える道德授業に加え、よりよく生きていく指標となる道德的価値について、その意味や自分の生活にどのようなよさ（意義）があるかを追究していく道德的価値の理解に重点を置いた道德授業を行うことで、道德の時間の充実・改善に必要な力や態度が発揮され、学習の3要素が相互に高まり、豊かな自分の生き方を追究し続ける力が育成されていくと考えた(図4)。以下に、心の葛藤を乗り越える道德授業と道德的価値理解に重点を置いた道德授業の基本的な進め方を示す(図5)。

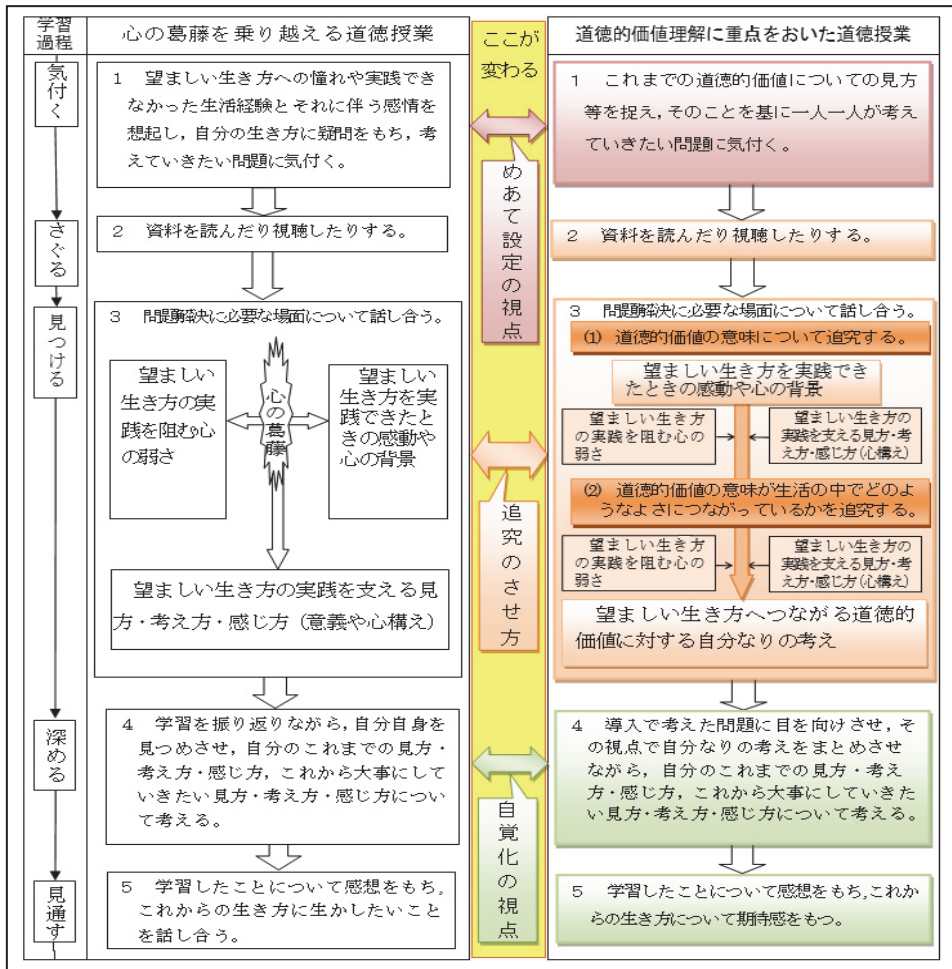


図5 心の葛藤を乗り越える道德授業と道德的価値理解に重点を置いた道德授業の基本的な進め方

3.3. 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳学習指導

(1) 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳学習内容設定における基本的な考え

学習内容については、子どもたちにとってよりよい生き方を考える上で価値のあるものではなくてはならない。それは、学ぶ必要性を子どもたちが感じ、多様な道徳的価値観が表出される内容であることが重要である。さらに、多様な道徳的価値観に触れながら、子どもたちが自分の中の課題解決につなげていけるような内容が求められる。これらのことを踏まえて学習内容を設定するためには、道徳授業における学びが連続・発展し続けるものであり、6年間のつながりを見越したものでなくてはならない。

そのために、まず、子どもの道徳的心情の発達や道徳的価値を認識できる能力の程度や社会認識の広がりなどを考慮して学習指導要領で示された、低・中・高学年の指導内容について、指導上で特に留意することを洗い出し、指導内容の要素として位置付ける。次に、その要素と各学年の実態の傾向を踏まえた上で、人間のもつ二面性に着目して人間理解を

深めるという立場から、望ましい生き方を支える見方・考え方・感じ方（意義・心構え）、望ましい生き方を阻む心の弱さといった面から、指導内容について分析を行う。そして、実際の指導で中心的に扱う資料に含まれる道徳的価値の分析結果や、関連する教育活動及び発展性を考慮して、重点的に扱う内容を位置付けた上で、心の葛藤を乗り越える楽しさや喜びを味わう道徳授業、道徳的価値理解に重点を置いた道徳授業のいずれかの学習内容として設定し、計画的・発展的な指導ができるようにする（図6）。

6年間のつながりを明確にした学習内容を設定することにより、授業中の子どもの思考過程・様相をより具体的に捉えることができる。それによって、教師の具体的な働きかけが、より効果的なものとなる。さらには、子どもたちの表出した道徳的価値観を教師がどのように見取り、その場で具体的な働きかけを行うことが可能となる。つまり、指導と評価を一体とした学習指導も充実していくと考える。

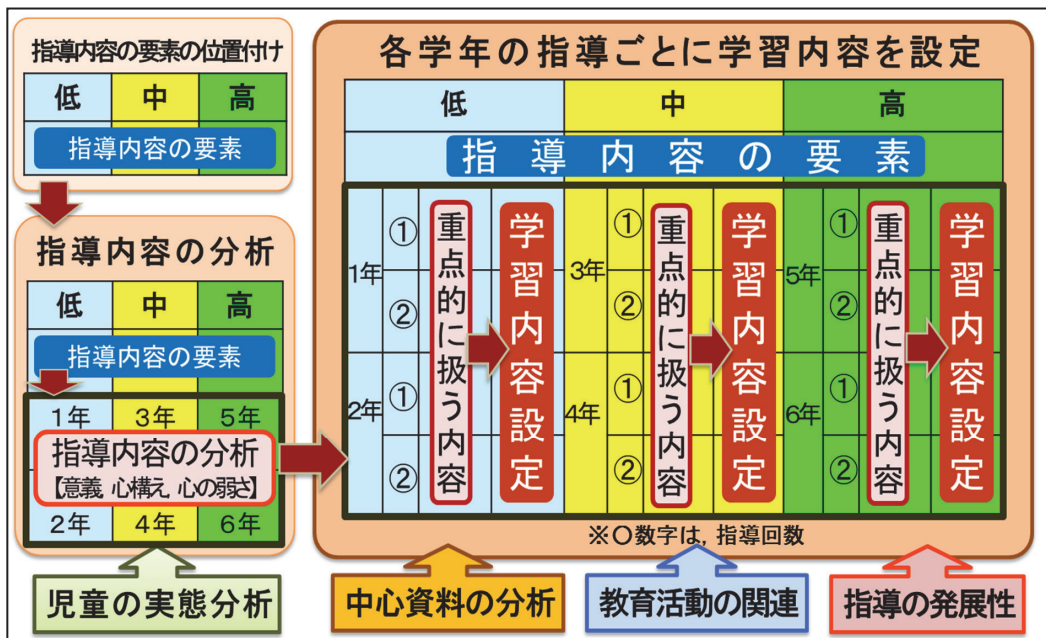


図6 6年間のつながりを明確にした学習内容設定の流れ

(2) 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳学習内容設定の実際

ここでは、誠実・明朗にかかわる内容につ

いて述べていく。この内容については、道徳教育推進上の基本的配慮事項として学習指導要領で示されている「人としてしてはならな

表4 6年間のつながりを明確にした学習内容（誠実・明朗にかかわる内容）

【低学年】 1-(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。				
指導内容の要素: すっきりとした快い感情, 自分の明るい生活, うそやごまかしによる暗い生活				
1学年の実態	正直に生活することはよいことであり, 大切であることは理解しており, 正直でありたいという思いをもって生活している。しかし, 自己中心的で感情的な行動からうそやごまかしをしてしまっているものの, その経験や心情については想起することがなかなかできない。			
実施月	重点的に扱う内容 (意義, 心構え, 心の弱さ)	主題名・資料名	学習内容	関連する教育活動
6月	意: 快い感情, 自信	㊟ほんとうのことを ㊞おもいほり	心の葛藤	生活: みんなであそぼう
	心: 明るく過ごしたいと思う			
	弱: 自己中心, 労苦からの逃避			
9月	意: 快い感情, 信頼関係	㊟うそつき ㊞ひつじかいのいたずら	心の葛藤	特活: 係活動
	心: 相手の気持ちをよく考える			
	弱: 楽観的な考え, 無責任			
1月	意: 自他の快い感情, 明るい生活	㊟あやまろう ㊞やぶれたたいこ	価値理解に重点	特活: 冬休みを振り返って
	心: 非を素直に認め, 直す			
	弱: 自己弁護, 楽観的な考え			
2学年の実態	自分自身のうそやごまかしをしてしまった経験やその時の心情について, 想起し, 気づくことができつつある。正直に行動することのよさについては, 自分自身の快い感情 (うれしさ, すがすがしさなど) よりも, 「他者から褒められる」「人から文句を言われぬ」といった, 他律的な要素を含んだものとして捉えがちである。			
6月	意: 快い感情, 信頼関係 心: 相手の気持ちを考える 弱: 利害損得, 自己中心	㊟ひとつさしあげましょう ㊞くりのみ	心の葛藤	国語: お話を読んで感想を書こう「スイミー」
8月	意: 快い感情, 明るい生活, 自信 心: 後先のことをよく考える, 真面目さ 弱: 自己弁護, 利害損得	㊟明るい生活 ㊞わらったねこ	価値理解に重点	特活: 係活動
1月	意: 自他の快い感情 心: 非を素直に認め, 直す 弱: 労苦からの逃避, 楽観的な考え	㊟だまってい ㊞かびんがわられた	心の葛藤	特活: 冬休みを振り返って 家庭学習
【中学年】 1-(4) 過ちは素直に改め, 正直に明るい心で元気よく生活する。				
指導内容の要素: 自分自身に正直であることの快適さ, 自己共に明るく活発な生活, 自分の過ちは反省し改める				
3学年の実態	うそやごまかしはよくない言動であり, うそやごまかしにより自分自身の感情が不快になることに気付き, 正直に行動しようと努力してきている。しかし, 自己保身や利害関係が先に立ち, うそやごまかしをしてしまうことがある。また, うそやごまかしが相手や周囲に与える影響については, あまり理解していない。			
実施月	重点的に扱う内容 (意義, 心構え, 心の弱さ)	主題名・資料名	学習内容	関連する教育活動
8月	意: 安心感, 他者の喜び	㊟せいじつな気持ち ㊞やくそく	心の葛藤	特活: 係活動 特活: 夏休みを振り返って
	心: 自分にも相手にも, 正直でいようとする気持ちをもつ			
	弱: 無責任, 利害関係			
12月	意: 快い感情, 信頼関係	㊟明るい心 ㊞まどガラスと魚	価値理解に重点	体育: ルールを工夫したハンドボール 家庭生活
	心: よくないことを認める, 自分の心に正直に行動する			
	弱: 自己保身, 楽観的な考え			
4学年の実態	自分や相手に対して正直に行動することが, 自分自身の爽快感や他者との信頼関係を保つことにつながることを理解し, いつも正直な言動をとっていかよう努力してきている。しかし, 利害打算的な言動をとってしまったり自己中心的であったりして, 人間関係を損なってしまうことがある。			
9月	意: 快い感情, 自信, 信頼関係	㊟自分に正直に ㊞百点を十回とれば	心の葛藤	学校行事: 大運動会
	心: 正しいことをする			
	弱: 利害損得, 自己中心			
1月	意: 達成感, 満足感, 安心感	㊟ふりだした雨 ㊞そうじ当番	価値理解に重点	特活: 冬休みを振り返って 特活: 係活動
	心: 自分の正しいと思うことを行動に移す			
	弱: 怠惰, 無責任, 楽観的な考え			

【高学年】 1-(4) 誠実に明るい心で楽しく生活する。				
指導内容の要素: 自分自身への誠実さ, 真面目に生活することへの誇り, 信頼関係, 楽しく安心した集団生活				
5学年の実態	うそやごまかしの行為が他者を欺く行為となるだけでなく, 自分自身も欺く行為であることを理解し, 誠実に生きようとしている。しかし, 自己保身などによる少しの判断の誤りから, 誠実な行為を行うことの難しさを感じている。			
実施月	重点的に扱う内容 (意義, 心構え, 心の弱さ)	主題名・資料名	学習内容	関連する教育活動
9月	意: 安心感, 向上心, 信頼関係	① 明るく生きる ② 多かっただおつり	心の葛藤	学校行事: 大運動会 特活: 宿泊学習に向けて
	心: 自分にうそをつかない			
	弱: 楽観的な考え, 自己保身			
1月	意: 充足感, 尊敬, 信頼関係	① 誠実に生きる ② チャイさんのマンゴー	価値理解に重点	体育: ルールを工夫したティーボール
	心: 誰に対しても誠実に生きる			
	弱: 無責任, 自己保身			
6学年の実態	誠実に生きることで人間関係が潤い, 明るく生活できることを理解している。しかし, 自分の行為を客観的に見る力があるものの, その未熟さから, 自分の間違っただ判断に固執したり, 自己保身のために間違っただ判断や行為をしてしまったりすることがある。			
9月	意: 自信, 他者の喜び, 信頼関係	① 心をこめて ② 本屋のお姉さん	心の葛藤	学校行事: 大運動会 特活: 修学旅行へ向けて
	心: 誰に対しても誠実な心をもつ			
	弱: 楽観的な考え			
1月	意: 自信, 向上心, 信頼関係	① ごまかし ② のりづけされた詩	価値理解に重点	総合: 「ぼく、わたしの「のぞみ」への挑戦」(キャリア教育)
	心: 過ちを改める心をもつ, 誠実な心をもつ			
	弱: 自己保身, 楽観的な考え			

※心の葛藤: 心の葛藤を乗り越える楽しさや喜びを味わう道徳授業, 価値理解に重点: 価値理解に重点を置いた道徳授業

いこと」の内容であり, 低学年段階からの発展的指導が求められている。また, 他の指導内容の素地的要素となるような関連性も強い内容であると捉え, 本校においても重視して指導しているものである (表4)。

(3) 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳学習指導方法の基本的な考え

これまでに設定した学習内容をよりよく学び取らせるためには, 子どもたちが自分の生活と関係付けて学び取る必要がある。そこで, 学習内容設定の要件を踏まえて, 多様な道徳的価値観を表出させたり, 授業の中で追究したことを自らの生活の中で生かせたりする活動や学び合いの必要性や自分自身の変容を感じ

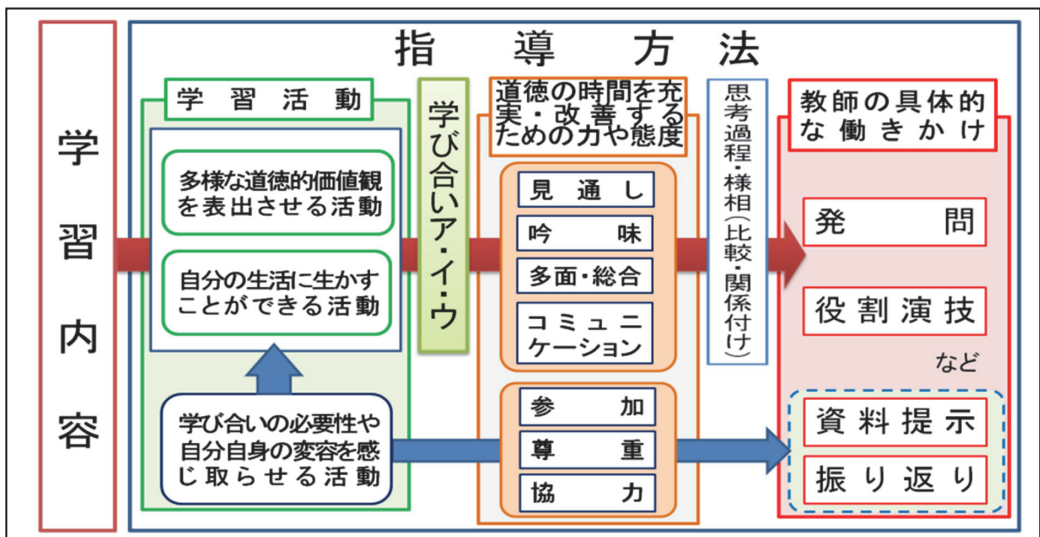


図7 教師の具体的な働きかけまでの流れ

じさせるための活動を行う必要があると考えた。その際、教師は、子ども達に道徳の時間を充実・改善するための力や態度をどのように発揮させながら思考させていくのかを明確にし、そのための具体的な手立てを講じていく必要がある。以下に学習内容を受けて、教師がどのような手立てを講じていくかを明確にするまでの流れを示す(図7)。

(4) 豊かな生き方を追究し続ける力を育てる道徳学習指導方法の具体

本研究では、発問によって表出される道徳的価値観を基にした見方・考え方・感じ方に多様性があり、その後の日常生活においても、生かしていくことができるようにした。その際には、見通し、多面・総合、吟味、コミュニケーションといった力を発揮することを留



図8 発問の実際

意していく。今回、新たに発問設定の視点として、「子どもたちの多様な道徳的価値観が表出する発問」「子どもたちが日常生活の中で自問自答できる発問」を見出した。

多様な道徳的価値観を表出させる発問では、順位や共通性を問う内容を主に設定する。それによって生じた道徳的価値観に対する見方・考え方・感じ方をもとにして、比較・関係付けを行いながらねらいに迫るようにする。また、日常生活の中で自問自答できる発問では、道徳の時間の中で自分自身に問いたことを日常生活と比較・関係付けを行いながら、道徳的実践を行う際に改めて自分自身に問いかける力となるようにする(図8)。

4. 研究のまとめ

4.1. 成果

- ・ これからの時代に必要な豊かな自分の生き方を追究し続ける力を育成していくために、道徳教育の要の時間である道徳の時間を充実・改善させるために7つの力や態度を明確にすることができた。
- ・ 道徳の時間における必要な力や態度を授業の中でどのように出現・発揮させることが、学力の3要素を高め、豊かな自分の生き方を追究し続ける力を育成することにつながるかを、実践を通した子どもの姿から明らかにすることができた。
- ・ 学習内容設定において、指導内容に照らし合わせた子どもの実態を加味しながら、従来の分析方法をさらに具体化し、学習内容の発展性を明確にしたことで、それぞれの学年間で学ばせたい学習内容を教師側が明確にすることができた。

4.2. 今後の可能性

- ・ 本シリーズで設定した道徳の時間を充実・改善する力と発展性を明確にした学習内容から、子どもたちが意欲的に学び続けられるような、同内容項目による複数時間の取り扱いの道徳授業を創造できる。
- ・ 小学校期及び中学校期を1サイクルと捉え、

9年間を通じて、道徳性を育成し続ける道徳授業の位置付けを明確にできる。

付記

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成25～27年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、道徳教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。

参考文献

- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領解説 道徳編」(東洋館出版社 平成20年)
- ・ 新宮弘識「道徳」生き生きとした授業を創る(国土社 平成7年)
- ・ 新道徳教育事典(第一法規出版社 昭和55年)
- ・ 假屋園昭彦他著「教師と児童とが対話をとととして道徳的価値を発見する授業デザインの開発(Ⅱ)」(鹿児島大学教育学部研究紀要 第65巻 2014年)